

科学ヘジャンプ in KAGAWA 最終報告

1. 実施日 平成25年11月24日(日) 10時30分から15時30分
2. 場 所 香川県立盲学校
3. 参加者

(1) 視覚障害児童生徒	26名	
(2) 保護者・兄弟	32名・兄弟児5名	
(3) スタッフ	教職員・大学等教員	68名
	学生ボランティア	33名
4. ワークショップ等の内容

11:00~12:30	ワークショップ I	WS1:かたちランド	A班(4)	
		WS2:どこまで届く?糸電話	B班(2)	
		WS3:からだが動くしくみを調べよう	C班(3)	
		WS4:長く回り続けるコマを作ろう	D班(3)	
		WS5:化学実験にiPadを使ってみよう	E班(3)	
		WS6:電池ってどんなもの?自分で電池を作ってみよう	F班(5)	
		WS7:モーターを作ろう	G班(3)	
		WS8:骨は語る	H班(3)	
	兄弟向け企画 I	WS:触ってみよう・感じてみよう	I班(5)	
	保護者向け企画 I	グループに分かれて、全ての講義の様子を見学。	(32)	
12:30~13:20	参加者誘導	各会場から食事会場へ参加者を誘導		
	昼 食			
13:20~13:30	参加者誘導	食事会場から各会場へ参加者を誘導		
13:30~15:00	ワークショップ II	WS9:どこまで届く?糸電話	A班(4)	
		WS10:長く回り続けるコマを作ろう	B班(2)	
		WS11:どうすれば液体を固まらせるか?	C班(3)	
		WS12:鳥の形と大きさ	D班(3)	
		WS13:モーターを作ろう	E班(3)	
		WS14:化学実験にiPADを使ってみよう	F班(5)	
		WS15:からだが動くしくみを調べよう	G班(3)	
		WS16:湿布薬を作ろう	H班(3)	
		兄弟向け企画 I	きょうだい児WS:授業見学	I班(5)
		保護者向け企画 I	講演会	

5. アンケート結果

(1) 小学生

科学コミュニケーション連携推進事業 アンケート(小学生)

記入年月日		2013年11月24日	
		全国規模ネットワーク支援	
開催日時	2013年11月24日	提案機関名	
活動名称	科学へジャンプ! In KAGAWA		
		活動No.	

1. 性別	男	女	不明	年齢	<5歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	>12歳
	5	5	2						2	3	2	3	2	

学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	不明
		2	3	2	2	3	

アンケート枚数
12

2. 今日の活動に参加した感想

①とても楽しかった	②まあまあ楽しかった	③あまり楽しくなかった	④ぜんぜん楽しくなかった	不明	Σ
10	2	0	0	0	12

3. 今日の活動に参加した感想

①とてもわかりやすかった	②まあまあわかりやすかった	③ふつう	④すこしむずかしかった	不明	Σ
8	2	1	1	0	12

4. まえにも今日のような活動に参加したことがありますか

①よく参加している	②参加したことがある	③今日がはじめて	不明	Σ
2	2	7	1	12

5. また、参加したいですか

①とても参加したい	②まあ参加したい	③どちらとも言えない	④あまり参加したくない	不明	Σ
9	2	0	0	1	12
⑤もう参加したくない	0				

6. 今日の活動のことをどこで知りましたか

①学校の先生から	②お父さんお母さんから	③その他	不明	Σ
9	2	0	1	12

7. 次にやってみたいことや気がついたことをかいてください

目の見えない人にとって苦労していること

糸電話・iPadがしたい

iPadがしたい

分かったこと不思議だなと思ったことがたくさんあった

化学の実験

スライムづくりが特によかった

筋肉の勉強も面白かった

(2) 中高生

科学コミュニケーション連携推進事業 アンケート(中高生)

記入年月日 2013年11月24日

全国規模ネットワーク支援

開催日時	2013年11月24日	提案機関名		活動No.	
活動名称	科学ヘジャンプ! In KAGAWA				

1. 性別	男	女	不明	年齢	12	13	14	15	16	17	18	19
	8	5	1		1	3	2	4	2	2		

学年	中1	中2	中3	高1	高2	高3	不明
	3	3	4	2	2	0	0

アンケート枚数
14

2. 今日の活動に参加した感想

①とても楽しかった	②まあまあ楽しかった	③あまり楽しなかった	④ぜんぜん楽しなかった	不明	Σ
11	3	0	0	0	14

3. 今日の活動に参加した感想

①とてもわかりやすかった	②まあまあわかりやすかった	③ふつう	④すこしむずかしかった	不明	Σ
10	3	0	1	0	14

4. まえにも今日のような活動に参加したことがありますか

①よく参加している	②参加したことがある	③今日がはじめて	不明	Σ
4	3	7	0	14

5. また、参加したいですか

①とても参加したい	②まあ参加したい	③どちらとも言えない	④あまり参加したくない	不明	Σ
8	5	1	0	0	14
⑤もう参加したくない					
0					

6. 今日の活動のことをどこで知りましたか

①学校の先生から	②お父さんお母さんから	③その他	不明	Σ
11	1	2	0	14

7. 次にやってみたいことや気がついたことをかいてください

- もっと機械系を作り学びたい
- モーターを使って車などを作りたい
- 動物の解剖
- CDの読み込み方書きこみ方
- 焼きそばを焼くのが意外と手が疲れる
- iPadをまたやってみたい
- 来年も参加したい
- 生物のはく製を使った授業を受けたい
- 本物そっくりなものを使ってみたい
- 注射器の切り込みは分かりやすくて楽しかった。
- 牛乳パックのビーカー立てがエコでよかった。
- 自分自身でできたことが一番良かった
- モーターの仕組みがよく分かった
- 手羽先で筋肉を観察するのが楽しかった
- 先生方の指導が分かりやすかった

(3) 保護者

科学コミュニケーション連携推進事業 アンケート(保護者)		記入年月日	2013年11月24日
		全国規模ネットワーク支援	
開催日時	2013年11月24日	提案機関名	活動No.
活動名称	科学へジャンプ! In KAGAWA		

1. 性別	男	女	不明	年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	≥70	アンケート枚数						
	4	18	1				6	16	1				23					
職業	中1	中2	中3	中	高1	高2	高3	高	大1	大2	大3	大4	大	院生	Σ	理系	文系	不明
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	会社員	教員	公務員	研究員	主婦	無職	他	不明	Σ									
	7	1	1	0	11	0	3		23									

今日の感想をお答えください。

2	①とても楽しかった	②まあまあ楽しかった	③普通	④あまり楽しなかった	⑤全然楽しなかった	不明	Σ
	15	8	0	0	0		23

3	①とてもわかりやすかった	②まあまあわかりやすかった	③普通	④少し難しかった	⑤とても難しかった	不明	Σ
	17	5	1	0	0		23

4. 保護者向け企画の内容はいかがでしたか。

①とてもよかった	②まあまあよかった	③普通	④あまり興味が持てなかった	
14	7	2	0	23

5. 以前にもこのような活動に参加したことがありますか。

①よく参加している	②参加したことがある	③今日がはじめて	不明	Σ
6	4	13		23

6. また参加したいと思いますか。

①積極的に参加したい	②機会があれば参加したい	③どちらともいえない	④あまり参加したくない	⑤もう参加したくない	不明	Σ
12	10	0	0	0	1	23

7. 今日の活動はお子様にとっていかがでしたか。(＃お子様と一緒に参加した保護者の方のみお答えください)

①とても楽しそうだった	②まあまあ楽しそうだった	③どちらともいえない	④あまり楽しそうではなかった	⑤つまらなそうだった	不明	Σ
13	5	1	0	0	4	23

8. 今日の活動をどこで知りましたか(複数選択可)。

①チラシ・ポスター	②広報誌	③学校	④科学館・公民館	⑤知人の紹介	⑥講師や主催者	⑦その他	不明	Σ
0	0	20	0	0	0	4		24

9. 次回に希望する内容や気がついたことなど、自由にお書き下さい。

保護者もシラバスが欲しかった

子どもにも講演を聞かせてやりたいと思った 来年も楽しみ

また楽しい科学を教えてください 参考になりました

もう少し子供が観察できる時間がほしかった

保護者同士の交流他学年の先生と交流する機会がもう少しあれば良かった

交通費の援助ももう少しあれば助かる

視覚障害のある方で理系(科学)の就職をされている方の話が聞きたい

小人数で納得できるまで教えてもらい、次への興味へ繋げていくことは良いことと感じた

「触れる」「聞く」など実際に体験できるイベントで楽しかった

今後もあると嬉しい

保護者間で交流する時間があるとよかった

保護者子供通しが交流(情報交換)できる内容を

学年にあったことに取り組み良かった

学校だと大人数で一つのことに取り組むのが大変だが、少人数でじっくり取り組み有意義だった

保護者向けの企画がよかった

子どもにもファン先生のように子に床にのかけはしになってもらいたい

多くの経験と勉強を重ねてもらいたいそのためにも「科学へ～」を長く続けてほしい

ぜひ継続してほしい

保護者向けの企画もいいが、午前もWSを見たい

保護者が聞いた話を子どもにも聞かせたい

iPadを使った理科実験をした

今後積極的に使っていきたい

全体会の座席に名前があればわかりやすい

グループ分けのシールも小さくて分かりにくい方がいた

ベトナムの事情がよく分かった40～50年前の日本と同じと思い、ファンさんにはぜひ頑張ってもらいたい

いつか子どもにも話を聞かせたい

盲学校があること、大学に行くのはなぜと思っている子どもには、必要な話だと思う

参加させてもらって良かった

保護者企画の話良かった

子供たちにも聞かせたい内容だった

中四国の子供たちの進路について当事者の経験などの講演も聞いてみたい

★「交通費の援助がもう少しあると助かる」との意見がありました。

6. スタッフ反省会から

(1) 各ワークショップの反省

(WS 1 「かたちランド」) 参加者の実態がわからないまま行った。初めは参加児童が固まってしまった。緊張しやすい子かどうかなどもう少し情報がほしい。重複児の参加、楽しむ様子はあったが内容が難しかったのではないかと。参加について考えていく必要がある。

(WS 2 「どこまで届く？糸電話」) 小3では内容として物足りなかったかも。対象児によって、内容を変える必要を感じた。

(WS 3 「からだがうごく仕組みを調べよう」) 小4児は、手羽先について学習したことがあるので物足りなかったのではないだろうか。中高生のグループの方はよく活

動できていた。

(WS 4 「長く回り続けるコマを作ろう」) 計画した内容が、子どもの様子を見て多かったと感じ、減らすなどをして実施した。出来たコマを楽しんで回す姿が見られた。

(WS 6 「電池ってどんなもの?」) 弱視の子で両手を操作して組み立てることが難しい子がいた。日常生活の中で取り組む必要を感じた。

(WS 7 「モーターを作ろう」) 事前に子どもの様子がもう少しわかっていたらよかった。午前と午後の参加者の実態の差を感じた。

(WS 8 「骨は語る」) 午前のワークショップでは、イヌ科の動物の骨を触ってもらった。実物の骨を使うとこのようなたくさんの勉強ができることを学生さんたちにもわかってもらえたのではないかな。

(WS 11 「どうすれば液体を固まらせるか?」) [略]…学習のねらいは伝えることができたのではないかなと思う。

(WS 12 「鳥の形と大きさ」) 鳥の模型はタッチカービングというもので、触察用に作られたもの。千葉県の内山さんが作っている。輸送費を負担すれば貸してもらうことができる。

(きょうだい児企画) 子どもがはじめから緊張をしていた。やはり子どもは緊張をして参加すると思うので、その辺を考えて次は内容を考えていきたい。一人がアイマスクをして触る、周囲の人は言葉で伝える、このことを自分のきょうだいにしてほしいと思い行ったが、最後に難しかったという感想があったので、次回は考えていきたい。

(保護者企画) 全部で42名、内保護者は32名。ファンさんは兄弟5人、内3人が全盲。日本のような盲学校をベトナムでつくりたいといっていた。本人は、30分しか話せないといっていたが、実際は60分話すことができた。

(2) 重複生の参加について

●重複でも指示に従って活動できる、他の子どもたちと一緒に参加できる子どもたち参加できるのでは。東京のワークショップで博物館の人にワークショップをもってもらったことがあった。素晴らしいワークショップであったが、遅れのある子どもたちにとっては難しく、終わった後、大変であったと感想を言っていた。博物館の内容は基礎の身についた人が参加するのがよい。博物館は重複でない子で、少し遅れのある子は盲学校の先生のワークショップに参加するほうがよい。

●鳥取からも参加があったが、その子が楽しく参加できたのであればよい。
ネットワークの構築の会が行われているが、科学へジャンプだけでなく、その他にも
中四国でネットワークを広げていきたい。

(3) 来年度の開催について

●広島中央は100周年行事のため辞退したいという話があった。来年は中国に戻る
かどうか。松山はどうか。

校長会にも来年の開催について働きかけていく。交通費の補助を一律5千円とした。

●松山では、科学へジャンプについてあまり職員には知られていない。話をしてくれ
てもいいが、私の立場ではなんともいえない。

●校長会から5万円の補助をもらってとても助かっている。来年も続けてほしいと文
部科学省の方も言っている（吉田調査官）ので、お墨付きの行事である。科学へジャ
ンプは寄付金で動いている。続けていくために寄付をぜひ集めてほしい。

何年か行っている人は、毎年の内容に反省を加えて素晴らしいワークショップをおこ
なっている。今年初めて担当した人は、内容の検討をして、来年もぜひ行ってほしい。

(文責 牟田口辰己)